

2019 年度 環境活動レポート

(2019 年 4 月～2020 年 3 月)



㊦ 九州高圧コンクリート工業株式会社

目 次

1. 会社概要	1
2. 経営理念	3
3. 環境方針	3
4. 環境活動推進体制	4
5. 中長期目標	
(1) 3ヶ年の中長期目標(2018年度～2020年度)	5
(2) 二酸化炭素排出量の推移	5
6. 2019年度環境活動実績	
(1) 活動内容	6
(2) 目標と実績並びに次年度の取組み	7
(参考) 特定事業者としての取組み	
〔省エネ法に基づくエネルギー使用量(実績)〕	9
(3) 環境活動コスト(実績)	9
(4) 令和元年度 第12回 環境活動(環境経営)レポート大賞・九州【大賞受賞】	9
(5) 主な環境への負荷の結果	10
(6) 地域貢献活動	11
7. 2019年度主な環境関連法規の遵守状況	12
8. 産業廃棄物処理業に関する情報	13
9. 2020年度環境活動目標	14
10. 代表者による全体評価と見直し	15

1. 会社概要

基本情報

■事業者名	九州高圧コンクリート工業株式会社	■代表者	掛林 誠
■資本金	2億4千万円	■設立年月日	1957年11月5日

事業内容

- コンクリートポール及びコンクリートパイル、その他コンクリート製品の生産並びに販売
- 土木建築工事の設計・施工並びに監督
- 産業廃棄物のリサイクル及び中間処理業(破砕)
- 既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

事業所

■本社	福岡市南区向野1丁目13番14号
■熊本工場	菊池市旭志川辺1349番地の4
■豊前工場	豊前市大字八屋2544番地の61
■鹿児島営業所	鹿児島市南林寺町26番4号

事業の規模

■売上高	91.5 億円
■生産量	69,726 トン
■工事件数	472 件
■産業廃棄物処理量	16,581 トン

許可内容

■建設業	土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、塗装工事業
■産業廃棄物処理業	中間処理(破砕): ガラスくず等(自動車等破砕物を除く。)、がれき類

沿革

1957年11月	設立	2010年 9月	エネルギー使用の合理化に関する法律に基づき特定事業者指定
1958年 9月	九州電力(株)にポール納入開始	2011年11月	エコアクション21認証取得
1958年10月	豊前工場竣工	2012年 9月	再生骨材製造プラント設置(熊本)
1964年 4月	PCパイル製造開始	2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始(熊本)
1970年 4月	JR、NTTにポール納入開始	2013年11月	環境活動レポート大賞・九州廃棄物部門賞受賞
1971年 7月	鹿児島営業所を設置	2014年 7月	ポール生産を熊本工場に集約
1977年 4月	電線類地中化製品製造開始(豊前)	2014年11月	環境活動レポート大賞・九州九州地方環境事務所長特別賞受賞
1981年 9月	熊本工場竣工	2017年11月	創立60周年
1998年 2月	廃品コンクリートポールのリサイクル事業開始	2017年11月	環境活動レポート大賞・九州エネルギー部門賞受賞
2001年 1月	ISO9001 品質システム認証取得	2019年11月	環境経営(活動)レポート大賞・九州大賞・九州賞受賞
2007年 5月	新 JIS マーク取得(豊前)	2020年 2月	環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞受賞
2007年 7月	新 JIS マーク取得(熊本)		



熊本工場

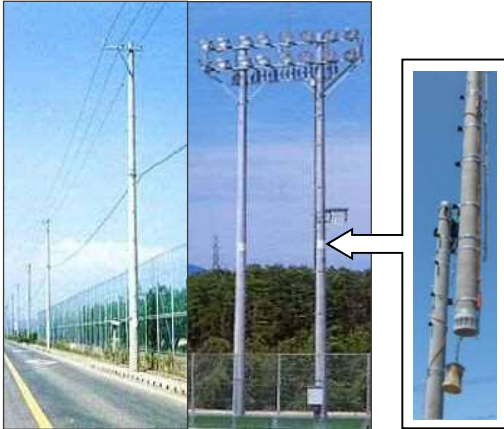


豊前工場

主な事業

■ポール事業

(製造、販売、設計、施工、劣化診断・補修工事等)



コンクリートポール
カラーポール
(九州電力用、NTT用、電車用)
分割式継コンクリートポール
(照明用、防球ネット用、アンテナ用)

■パイル事業

(製造、販売、設計、施工等)



[杭打ち工事]

■産業廃棄物処理事業

(産業廃棄物のリサイクル及び処理)



[廃品ポールの破碎処理] [再生砕砂、再生砕石]
○収集した産業廃棄物(廃品ポール)の
リサイクル促進

■地中線事業

(製造、販売、設計、施工、設備の点検・清掃等)



[マンホール]



[マンホール設置工事]



[ハンドホール(機器用)]



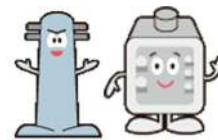
◇循環型社会への貢献(資源循環)

○環境衛生資材(床カラット)



- 産業廃棄物として処理していたコンクリートスラッジの有効活用
- 炭酸化処理過程での二酸化炭素排出量の削減や牛舎の環境改善に大きく貢献可能

○リサイクル製品



[九電向けポール
九電向けマンホール]



[ポール付属品]

- 自社製品に再生骨材を一部使用

○売却



路盤材
再生砕砂、再生砕石
(新規)コンクリートスラッジ



[鉄筋]

2. 経営理念

経営理念

「ありがとうと言われる会社になろう」

社 是

- ・事業を通じて、社会に貢献します
- ・事業の安定した成長と健全な発展に努めます
- ・従業員の生活の安定と向上を図ります

行動規範

私達は・・・自分の仕事に対して強い責任を持ち、誠実で誰からも信頼されるように行動します。

- ・品質、価格、納期面で競争力を確保し続けるとともに、お客さまに喜ばれる製品・サービスを創造し提供します。
- ・コミュニケーション豊かな企業風土を醸成し、働き甲斐を感じハラスメントの無い明るく楽しい職場を創ります。
- ・何事にも前向きに取組み、失敗を恐れず果敢に挑戦します。
- ・慣例にとらわれず常に柔軟に考え、知恵を出し合います。
- ・常にお互いの人格や価値観、立場を尊重し、真剣に向き合います。
- ・ルール・規則、作業手順を遵守し、安全第一を徹底します。
- ・公平で公正、かつ透明性の高い企業活動を通じ、法令遵守に努めます。
- ・企業活動を通じて社会の健全な発展に寄与し、信頼される存在であり続けます。
- ・環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷の低減に取組み、環境に優しい企業を目指します。

3. 環境方針

環 境 理 念

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取組みます。

基本指針

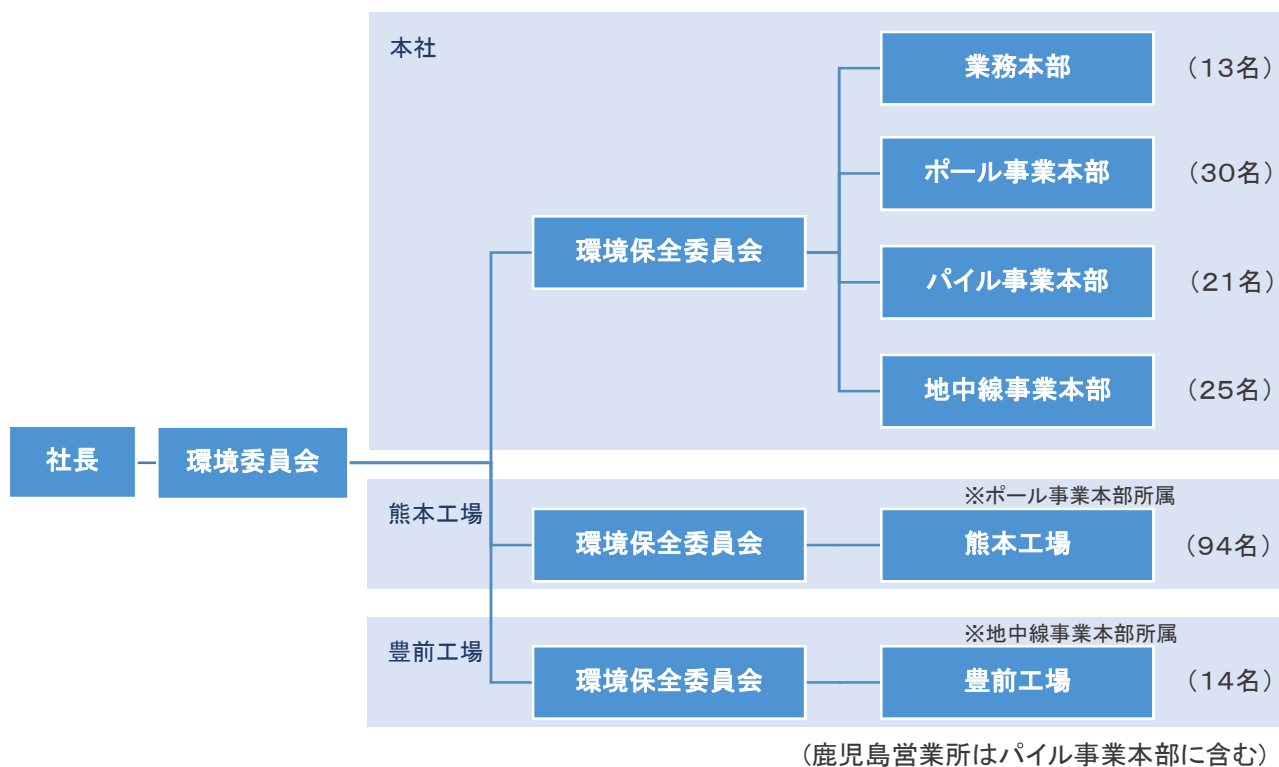
1. 環境活動として、次の重要テーマに取組みます。
 - (1)温室効果ガス排出量の削減
 - (2)廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3)水使用量の削減
 - (4)化学物質使用量の削減
 - (5)グリーン調達の推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境目標及び環境活動計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
5. 環境活動レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

制定 2010 年 12 月 6 日 改定 2014 年 6 月 20 日
九州高圧コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 掛林 誠

4. 環境活動推進体制

[2020年7月]

従業員数:198名



委員会の構成

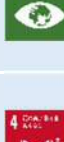
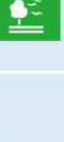
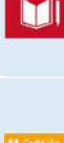
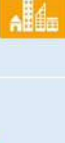
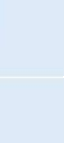
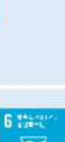
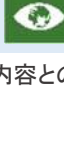
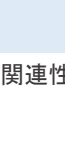
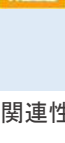
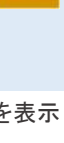
	環境委員会 (全社)	環境保全委員会		
		(本社)	(熊本工場)	(豊前工場)
委員長	業務本部長[環境管理責任者]	業務本部長	工場長	工場長
委員	環境保全委員長 エネルギー管理員 エネルギー管理企画推進者	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員
事務局	業務本部総務G	総務G	生産G	生産・検査G

主な役割

組 織		責 任 者	
環境委員会	環境活動マニュアル策定 環境方針・計画及び目標の策定 公害防止に関する対応事項策定 省エネ法対応 等	環境管理責任者	全社における環境活動の構築・運用 責任者
環境保全 委員会	環境計画及び目標の啓蒙・実施 環境活動の確認・評価 公害防止対応 緊急事態への対応 等	環境保全委員長	事業所における環境活動の構築・運用 責任者
事務局	環境への負荷 取組みの取りまとめ 環境関連法規の確認・情報収集 環境活動レポートの作成 等	—	

6. 2019年度環境活動実績

(1) 活動内容

環境活動方針	取組み項目	実施内容	関連 SDGs※
地球環境問題への取組み	事業所における省エネ・省資源活動の推進	・夏季節電期間クールビズ実施（5～10月） ・冬季節電期間ウォームビズ実施（11～3月） ・主要設備更新時の高効率機器導入促進 ・オートクレープ養生廃止への取組み（A重油、水使用量の削減） ・工業用水のリサイクル、洗浄水の循環	     
	運輸面でのCO ₂ 削減推進	・車両計画に基づき低公害車へ切替実施 ・エコドライブ10すすめの確実な実施	 
循環型社会形成への取組み	廃棄物のゼロミッション活動の継続的な展開	・事業運営で発生した産業廃棄物の分別 ・受託した産業廃棄物(廃品コンクリートポール)の管理・適正な処理 ・ペーパーレス化の推進等による資源の有効活用 ・回収BOXへの古紙回収 ・コンクリートスラッジ有効活用による産業廃棄物の削減	  
	グリーン調達への推進	・事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入と購入実績の確実な把握	  
地域環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・化学物質排出把握管理促進法に基づいた化学物質使用量の的確な把握 ・環境保全設備の適切な運用 ・取扱量1t超の物質を届出	     
社会との協調	環境情報の公開	・環境活動レポート作成 ・ホームページで公開（産業廃棄物処理施設の維持管理の状況に関する情報）	 
	地域に密着した環境活動の推進	・事業所周辺の清掃活動（本社：毎週、工場：1回/年） ・地域清掃ボランティアへの参加 ・九電グループ3社合同地域清掃活動	
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自主的運用	・環境委員会実施（2回/年） ・環境保全委員会実施（本社：2回/年、工場：4回/年） ・内部監査の実施	    
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	・環境教育の実施 ・九電グループ環境担当者連絡会議を活用した情報交換、共有の実施	      

※ 2020年度から取組みを開始するSDGsと2019年度活動内容との関連性を表示

(2) 目標と実績並びに次年度の取組み

目標項目	主な取組み	目 標	実 績	達成度 %	参 考		評 価	次年度の取組み	
					基準年度比 (基準年度)	前年度比 (2018 年度)			
					%	%			
【製造業】									
オフィス電力 使用量削減	・クールビズ・ウォームビズの取組み ・空調機器の適正温度管理 ・使用していないエリアの電源 OFF	7.66 kWh/㎡以下	7.45 kWh/㎡	102.7	79.7 (2009)	95.2	○	・クールビズ、ウォームビズの取組みが定着している ・適正温度管理や不要照明の消灯等は定着しており、節電の意識は徹底されている	・夏季・冬季における節電への取組みを継続
工場等の電力 使用量削減	・デマンド監視対象機器の追加 ・高効率コンプレッサー更新(2 台) ・クレーン等照明機器のLED化	30.0 kWh/t 以下	31.9 kWh/t	93.8	98.3 (2009)	105.0	×	・高効率コンプレッサーの更新(2 台)や照明のLED化等、積極的に機器の節電に取り組んでいる ・熱中症対策としてゾーン空調機器の導入や特殊柱受注増に伴う第三工場の休日生産により電力使用量が増加し、目標未達	・老朽化配管の整備を徹底し、エネルギー消費抑制に取り組む ・受変電設備高効率変圧器への計画的更新(豊前工場) ・製造設備機器の効率的な運用の徹底に取り組む
低公害車の導入	・車両計画に基づき、低公害車導入	71.0 %以上	88.9 %	125.2	125.2 (2009)	100.0	○	・車両更新時に合わせて、計画的な切替を実施している (ハイブリッド車 4 台⇒5 台、低燃費・低排出ガス車 2 台⇒1 台)	・車両計画に基づき、計画的な切替を継続
ガソリン 消費率向上	・エコドライブ 10 のすすめの継続実施 ・乗り合せ声掛けの実施	13.5 km/ℓ以上	15.2 km/ℓ	112.6	108.6 (2010)	98.4	○	・エコドライブの取組みが定着している	・エコドライブ 10 のすすめのビデオやリーフレットを活用し、取組みを継続 ・TV会議を活用し事業所間の出張抑制を図り、燃料使用量の削減に取り組む
A 重油 使用量削減	・蒸気配管・バルブ等の断熱強化等による熱ロス抑制対策の実施 ・オートクレーブ養生廃止への取組み	11.1 ℓ/t 以下	10.2 ℓ/t	108.3	85.0 (2009)	100.8	○	・蒸気配管やバルブ等の断熱対策は、定期的に実施している	・計画的に熱ロス対策を継続 ・オートクレーブ運用停止後の取組み成果を評価
オートクレーブ養生 廃止の構築	・廃止に向けた計画的な製品開発、承認申請対応	75.0 %以上 [6/8 品種]	100.0 % [8/8 品種]	133.3	133.3 (2018)	133.3	○	・計画以上の取組みを完了し、全品種の形式承認を得ている	・オートクレーブ缶撤去の検討、定期検査・点検は継続実施 〔オートクレーブ缶運用停止(2020.5.15～)〕
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・スラッジリサイクルの取組み ・環境衛生資材「床カラッと」販売	96.0 %以上	100.0 %	104.2	104.4 (2010)	100.4	○	・日常の取組みが定着している ・コンクリートスラッジ委託処理費(2019 年度実績 49.2 百万)の削減として、発生抑制及び路盤材化への運用拡大が必要 〔スラッジ有価物利用実績:417t(委託処理費 320 万円削減)〕	・リサイクルによる産業廃棄物削減への取組みを継続 ・コンクリートスラッジの発生抑制を継続し、路盤材化への運用拡大を図る (スラッジ有効利用による産業廃棄物削減 目標:1,500t減)
古紙 リサイクル率 100%	・分別の徹底 ・回収 BOX への古紙回収	100.0 %	100.0 %	100.0	100.0 (2009)	100.0	○	・日常の取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続
用紙 使用量削減	・両面コピー、裏面使用の推進 ・電子媒体活用によるペーパーレス化	975 枚/人以下	811 枚/人	116.9	82.5 (2010)	95.4	○	・両面コピーや裏面利用に取り組んでおり、資源有効活用の意識が定着している	・電子媒体の活用、両面コピー、裏面利用による取組みを継続
オフィス水 使用量削減	・節水コマの設置 ・節水の推進及び子メーター管理	0.54 ㎡/人以下	0.41 ㎡/人	124.1	106.2 (2009)	93.9	○	・節水の取組みや子メーター管理が定着している	・子メーター管理、節水の推進を図り、水使用量削減の取組みを継続
工場等の水 使用量削減	・工業用水リサイクルの取組み ・子メーター管理及び節水の推進	0.76 ㎡/t 以下	0.55 ㎡/t	127.5	65.5 (2009)	118.7	○	・工業廃水のリサイクルや雨水を利用したベルトコンベヤー洗浄水の循環化を実施している ・休日生産の影響や配管破損等による漏水等で原単位が悪化している	・工業用水の循環や処理水有効活用の取組みを継続 ・日々の子メーター管理や老朽化配管の点検、整備に取り組む
事務用品の グリーン調達率向上	・事務用品購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	94.7 %	110.1	150.8 (2009)	103.1	○	・グリーン調達の取組みが定着している	・事務用品購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続
環境関連法令の 遵守徹底	・内部監査の実施 ・チェックリストの活用	遵守徹底	違反事例なし	100.0	100.0	100.0	○	・内部監査による遵守状況の確認や情報の共有を実施している (法令違反、関係機関からの指定、訴訟なし)	・内部監査による遵守状況の確認及び情報共有を継続 ・チェックリストを活用し、定期的に遵守状況を確認
【建設業】									
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底	96.0 %以上	99.1 %	103.2	100.1 (2011)	99.1	○	・日常の取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 ・優良事業者を優先した産業廃棄物処理事業者の選定
建設資材の グリーン調達率向上	・建設資材購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	100.0 %	116.3	101.0 (2013)	100.0	○	・グリーン調達の取組みが定着している	・建設資材購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続
【産業廃棄物処理業】									
受託した産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・再生骨材の利用促進	96.0 %以上	99.9 %	104.1	99.9 (2011)	100.0	○	・日常の取組みが定着している ・ポール付属品、路盤材活用による取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 ・再生骨材の利用促進の取組みを継続

○ 化学物質及び製品・サービスに関する取組みは、環境計画の中で取組む

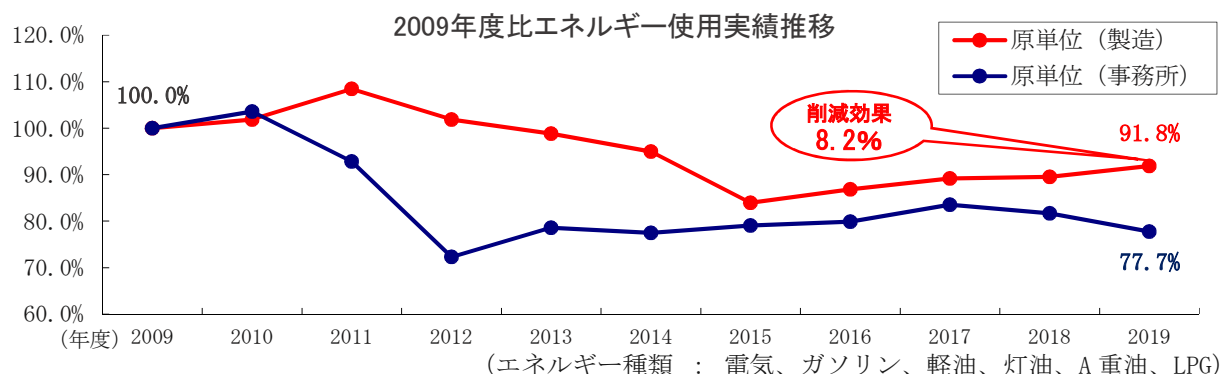
○ ㎡は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を示す

（参考）特定事業者としての取組み

〔省エネ法に基づくエネルギー使用量（実績）〕

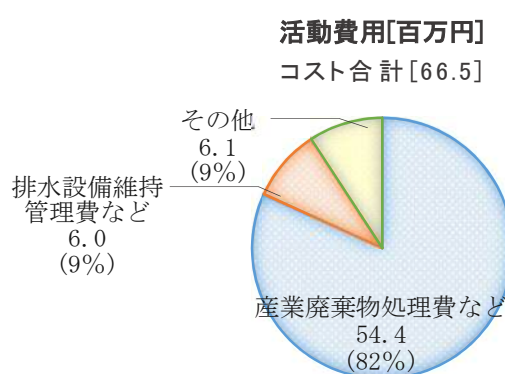
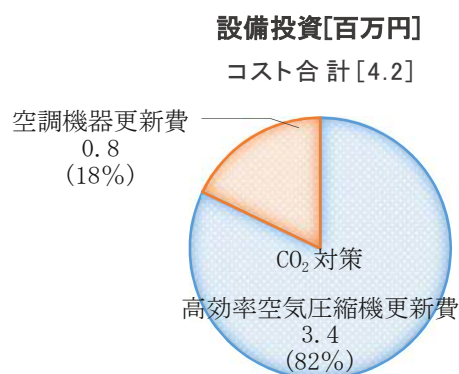
省エネ法では努力目標として、エネルギー使用量原単位を毎年 1%削減することが求められています。基準年度(2009 年度)から累計 10%の削減目標に対し、実績では 8.2%削減しています。

2020 年度以降はオートクレープ養生廃止に伴い、目標を達成する見込みです。



（3）環境活動コスト（実績）

① 投資額



② 主要エネルギーのコスト削減効果

項 目	前年度比	基準年度比
電 力	2.5 百万円増加	0.9 百万円削減
A 重油	0.4 百万円増加	8.4 百万円削減
水	1.8 百万円増加	5.9 百万円削減

※原単位換算で算出

2019 年度においては前年度と比べ 4.7 百万円のコスト増となりました。主な要因として以下の 2 点が考えられます。

- 当社の主力工場である熊本工場にゾーン空調機器を導入し作業環境は改善しましたが、夏季の電力使用量が増加しました。
- アンテナポール受注増対応のため、主に第3工場で休日出勤をしました。休日生産の場合、製造しない工程も一部を稼働させる必要があるため、生産量あたりのエネルギー使用量が増加しました。

基準年度比では、15.2 百万円とコスト削減効果が得られています。

（4）令和元年度 第 12 回 環境活動（環境経営）レポート大賞・九州【大賞受賞】

2013 年より環境活動レポート大賞・九州に応募を始めたが、今回初めて大賞を受賞しました。

表彰式では、オートクレープ養生を使用しない技術の導入及び高効率コンプレッサーへの転換など投資を伴う環境経営を実践していること。加えてレポートが多岐に亘る活動を分かりやすく、かつシンプルに整理され読み手として好感が持てるとの評価をいただきました。

更に、本レポートは環境省主催の「第 23 回環境コミュニケーション大賞」において、優良賞を受賞しました。

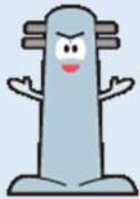
今回の受賞は、エコアクション 21 の趣旨にのっとり、PDCAサイクルを着実に回しながら、継続的な改善を行ってきた成果であると感じています。今後とも地球環境問題にしっかりと向き合い、環境負荷の低減に努めてまいります。



(5) 主な環境への負荷の結果（事業別）

[]内は 2018 年度実績

	製 造 業	建 設 業	産業廃棄物処理業
資源投入量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量
	電力 219 (万 kWh) [212]	電力 0.1 (万 kWh) [0.4]	電力 3.5 (万 kWh) [3.5]
	A重油 711 (kℓ) [717]	ガソリン 2 (kℓ) [3]	軽油 63 (kℓ) [62]
	軽油 25 (kℓ) [25]		
	その他 6 (kℓ) [6]		
	水使用量 38 (千 m ³) [32]	資材使用量	水使用量 0.5 (千 m ³) [0.5]
	コピー用紙使用量 142 (万枚) [143]	セメント 8,282 (トン) [8,314]	
	化学物質取扱量	生コンクリート 2,414 (トン) [1,963]	
	メチルナフタレン 8.4 (トン) [8.5]	鋼材 83.3 (トン) [0.1]	
	キシレン 0.5 (トン) [0.7]	防錆塗料 1.1 (トン) [2.6]	

事業活動	生産量	工事件数	受託した産業廃棄物の処理量
	 コンクリートポール (千トン) 67.7 [68.6]	鉄塔基礎工事 (件) 192 [302]	受入量 (トン) 16,581 [16,858]
	 地中製品 (千トン) 2.0 [2.3]	電力管路工事 (件) 142 [141]	破砕量 (トン) 16,581 [16,858]
		建築・土木 構造物基礎工事 (件) 55 [80]	再資源化量
		その他工事 (件) 83 [81]	路盤材、原材料 (トン) 15,320 [15,698]
	古紙リサイクル率 100.0 (%) [100.0]		リサイクル業者に再委託 (トン) 21 [20]
	産業廃棄物 リサイクル率 100.0 (%) [99.6]	産業廃棄物 リサイクル率 99.1 (%) [100.0]	形鋼材 1,239 (トン) [1,140]
			産業廃棄物 リサイクル率 99.9 (%) [100.0]

環境負荷量	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 2,764 [3,001]	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 6 [8]	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 177 [170]
	産業廃棄物処分量 (トン) 0 [22.1]	産業廃棄物処分量 (トン) 10.9 [0]	最終処分量(委託) (トン) 13.5 [6.0]
	化学物質排出量 (トン) 0.9 [0.7]		

(6) 地域貢献活動

3社合同の地域貢献活動

【参加会社】画面左から：九州テクノシステムズ、九州林産、九州高圧コンクリート工業



福岡市南区所在3社合同の地域貢献活動として、塩原中央公園の清掃を実施しました。
 今回の活動は、福岡市南区内に所在する、ご近所の九電 G 会社3社合同で企画しました。
 それぞれの会社においても、事務所周辺の清掃活動や違反広告物の撤去等を実施していますが、
 九電 G 会社として、何か一緒に活動できないかという話があがり、今回の実施に至りました。
 各社から役員を含む総勢 47 名に参加いただきました。短い時間でしたが、会社間の交流も生まれた
 ようです。
 これからも、九電 G として、ささやかながら地域に貢献できる活動を続けていきたいと思ひます。

各事業所の地域貢献活動



活動内容：(本 社) 違反広告物撤去に伴う清掃活動(2回/年)
 事務所周辺の清掃活動(1回/週)※輪番制で全員参加
 地域清掃ボランティアへの参加(1回/年)
 ：(熊本工場) 工場周辺の草刈り及び清掃活動(4回/年)
 地域清掃ボランティアへの参加(1回/年)
 ：(豊前工場) 工場周辺の清掃活動(1回/年)

7. 2019年度主な環境関連法規の遵守状況

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反はありません。関係機関からの指定、訴訟等もありません。

主な法規制の名称		チェックした内容	評価
環境一般	工場立地法	・特定工場 ・生産施設 ・緑地	○
	公害防止管理者法	・公害防止統括者及び公害防止管理者の選任	○
地球環境	地球温暖化対策推進法	・事業活動に伴う排出抑制 ・排出量の報告	○
	省エネ法	・特定事業者の指定 ・エネルギー使用状況の届出 ・エネルギー管理統括者の選任 ・中長期計画の作成	○
	フロン排出抑制法	・事業者の責務・保守点検 ・大気中への放出禁止	○
	オフロード法	・使用の制限	○
廃棄物・リサイクル	廃棄物処理法	・事業者の責務 ・保管基準の遵守 ・許可業者への委託 ・委託基準の遵守 ・マニフェスト管理	○
	建設リサイクル法	・再資源化等の遵守 ・実施状況の記録 ・保存 ・報告	○
	自動車リサイクル法	・再資源化預託金等の預託義務	○
	家電リサイクル法	・収集・再商品化に対する費用負担	○
	小型家電リサイクル法	・分別排出、適切な引き渡し	○
大気・騒音・振動	大気汚染防止法	・ばい煙発生施設等の届出 ・公害防止管理者等の届出 ・排出規制基準の遵守 ・測定 ・記録	○
	騒音規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
	振動規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
水質・土壌	水質汚濁防止法	・特定施設等の届出 ・排水規制基準の遵守 ・総量規制	○
	浄化槽法	・浄化槽設備の届出 ・未処理水の放流禁止 ・水質基準 ・水質検査 ・保守点検	○
化学物質	PRTR 法	・化学物質管理指針に基づく管理 ・排出量、移動量の届出	○
	毒物・劇物取締法	・毒物又は劇物の取扱及び表示	○

8. 産業廃棄物処理業に関する情報

(1) 産業廃棄物処理施設

項 目	熊本工場		豊前工場
事業施設の種類	産業廃棄物埋立処分(管理型)	がれき類の破砕施設	がれき類の破砕施設
産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	がれき類
処理能力	埋 立 地:12,152 m ² 埋立容量:60,557 m ³	160.0 トン/日(8 時間)	97.6 トン/日(8時間)
許可番号	第埋-014 号	第中-226 号	第457号
許可年月日	1994 年 9 月 9 日	2012 年 5 月 10 日	2010年1月22日

(2) 広域認定制度

項 目	内 容
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートボールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国
許可番号	第 199 号
許可年月日	2010 年 12 月 8 日

(3) 産業廃棄物処分量

項 目	熊本工場	豊前工場
事業の範囲	中間処理(破砕)	中間処理(破砕)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	ジョークラッシャー方式	油圧スクリーンクラッシャー方式
許可番号	04325008997	04020008997
許可年月日	2018年9月26日	2017 年 2 月 20 日
有効期限	2023年9月25日	2022 年 2 月 21 日

(4) 処理工程図



1. 廃品ボール搬入



2. 廃品ボール粗割



3. 一次破砕



二次破砕



4. 振動ふるい分け

リターン

- ・ 自社利用(再 生 骨 材)
- ・ 売 却(金属・路盤材)
- ・ 処理委託(廃プラスチック)

9. 2020年度環境活動目標

①環境活動目標

項 目	2020 年度目標	目標設定の考え方	(参考) 2019 年度目標
【製造業】			
オフィス電力使用量削減	7.66kWh/㎡以下	継続目標として取組み	7.66kWh/㎡以下
工場等の電力使用量削減	30.0kWh/t 以下	継続目標として取組み	30.0kWh/t 以下
低公害車の導入	71.0%以上	継続目標として取組み	71.0%以上
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	継続目標として取組み	13.5km/ℓ以上
A 重油使用量削減	10.9ℓ/t 以下	省エネ法対応で 前年目標▲1.66%	11.1ℓ/t 以下
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上
古紙リサイクル率 100%	100.0%	継続目標として取組み	100.0%
用紙使用量削減	975 枚/人以下	継続目標として取組み	975 枚/人以下
オフィス水使用量削減	0.54 ㎡/人以下	継続目標として取組み	0.54 ㎡/人以下
工場等の水使用量削減	0.75 ㎡/t 以下	中長期目標に従い 前年目標▲1%	0.76 ㎡/t 以下
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み	86.0%以上
コンクリートスラッジ有効利用による産業廃棄物削減	1,500t 減 (再生路盤材原料に活用)	安定処理基準に即した 能力から算出	-
環境法令違反及び環境事故の防止徹底	違反件数ゼロ	九電グループ目標で 取組み	-
【建設業】			
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み	86.0%以上
【産業廃棄物処理業】			
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上

※㎡は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を示す

②主な取組み及び新規内容

環境活動が定着し、各事業所で計画的かつ適切な取組みが行われており、良好な活動結果となりました。2020 年度は主に以下の項目に取組みます。(下線部は新規箇所)

- (i) 地球環境問題
 - ・エネルギー消費量の抑制(エアーロス対策・熱(蒸気)ロス対策の徹底)
 - ・受変電設備高効率変圧器への計画的更新(豊前工場)
 - ・夏季・冬季における節電への取組み
- (ii) 循環型社会形成
 - ・適正な管理・分別の徹底による産業廃棄物リサイクル率の維持・向上
 - ・コンクリートスラッジ有効活用(路盤材化)への取組み(熊本工場)
- (iii) 地域環境の保全
 - ・環境保全設備の適切な運用(環境法規に関する測定の徹底〔濃度・排出量・騒音・振動〕)
- (iv) 環境管理の推進
 - ・九電グループ情報ネットワークの活用による環境情報の共有化
- (v) SDGs の推進
 - ・勉強会等による、従業員への理解・浸透の取組み
 - ・バッジの配付による、SDGs に対する意識高揚

10. 代表者による全体評価と見直し

当社は、2010 年に「省エネ法特定事業者」と指定されたことを契機として、エネルギー管理体制と環境マネジメントシステムを構築し、翌年エコアクション 21 認定制度に加入しました。以来、環境活動の重要性を認識し、積極的に取り組んできております。

今後も当社は、エコアクション 21、九電グループ環境アクションプラン及び省エネ法の目的や趣旨を踏まえ、環境負荷の低減に向けた環境活動を愚直に実施してまいります。

(1) 2019 年度活動の総括

活動全体として、実績把握、教育訓練、内部監査に加えて環境情報の公開を継続的に実施しており、活動は定着していると評価しています。

主な取り組みとしては、

- ① 主要管理項目 16 項目のうち、15 項目については目標を達成しました。未達項目である「工場の電力使用量」については、特殊品種の受注増に伴う生産量当たりの電力使用量増加、猛暑日対策の従業員の安全衛生を考慮した空調機器の電力増加など、止むを得ないものでした。
- ② 2018 年度からの課題であった「オートクレープ養生廃止」については、関係部署の協力により、「全品種の形式申請の承認」という廃止の前提条件を早期に整えることができました。その効果により、2020 年 5 月から「A 重油」使用量が削減されることから、『温室効果ガスの排出量削減』に繋がると期待しています。

(2) 2020 年度の取り組み

更なる省エネルギーを目指し、引き続き老朽化設備をエネルギー効率の高い設備に更新したり、設備を効率的に運用するなどにより、エネルギー消費量の抑制に取り組んでいきます。

産業廃棄物については、リサイクル率を高い水準で維持継続します。特にスラッジについては、その大部分を外部に委託処理しているため、コスト低減及び環境負荷低減の観点から、自社での有価物利用を拡大します。

当社は SDGs(持続可能な開発目標)を意識した環境への取り組みに着手します。SDGs を経営戦略に落とし込むことで、企業としての志を示すとともに、全従業員の意識を高めることを通じて、地球環境との調和を目指してまいります。



本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者	取締役常務執行役員 業務本部長	仲野 眞司
エネルギー管理企画推進者	業務本部総務グループ長	森下 志朗
環境管理担当者	業務本部総務グループ	吉本 誠一
TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 http://www.kyuatsu.co.jp/		

2020年8月1日発行